コスト至上主義から脱却を

北海道ビルダーズ協会代表理事
株式会社キクザワ代表取締役
菊澤　里志さん

―ウッドショックの原因とは

根本的な原因は、木材産業の川下に当たる工務店やハウスメーカーが安い外国産材を使うため、川上の林業会社は「国産材の需要がないので伐採しない」と考え、川中の製材工場などは「住宅会社が国産材を使用しないなら製材しない」という悪循環にあると思います。川上から川中、川下まで、それぞれが目先の利益を追求しす過ぎるあまり、こうした状況に陥ったと考えています。

キクザワはツーバイフォー住宅が中心です。ツーバイフォー住宅は現状、輸入材が国内需要の大半を占めていますが、道産材にこだわってきました。しかし、トドマツ材を使っていた道内の取引先との関係で、やむなく道外の国産スギ材を使った時期もありましたが、現在は道産のスギを使用しています。国産材や道産材の利用を促進するには、川上から川下までが協力して国産・道産材にこだわり、道内・国内で完結する体制を作らなければいけません。

―建築費への影響はいかがですか

木材だけでなく全ての資材、そして人件費も高騰し、建築費の上昇につながっています。木材部分だけをみると、当社のツーバイフォー住宅の材料価格は、ウッドショック以前は1立方㍍あたり5万円ほどでしたが、一時は18万円ぐらいまで上昇しました。当社の住宅は、1棟当たり20立方㍍ほどの木材を使うので、約260万円の値上げになりますが、各社の上げ幅はさまざまです。

ウッドショックの影響で木材の値上がりを理解しているユーザーは多いのですが、値上がり分をすんなりとは受け入れてくれません。川中の工場に交渉しても難しい。供給側とユーザーの間に挟まれ、結局泣くのは私たちのような中小工務店です。

―ピンチはチャンスになりますか

大手ハウスメーカーは大量に木材を仕入れ、何百棟もの家を建てるので、コストカットが可能です。今は輸入材が高騰し、品薄なので、国産材や道産材の需要が高まっていますが、数年先に価格がある程度落ち着けば、大手は安い輸入材に切り替えるでしょう。製材工場なども膨大な設備投資をして増産態勢を取ることは躊躇するのではないでしょうか。

国や道などが、地場産材や道産材の普及促進に取り組んでいますが、コスト至上主義の会社が多く、安価な材料でたくさんの住宅を建てて販売するという風潮が続く限り、地場産材を利用しようという機運が続くかどうかは分からないと感じます。

―ビルダーズ協会の対応は

ビルダーズ協会は、中小工務店の集まりです。道産材にこだわる企業もありますが、そうではない工務店もあります。しかし、ウッドショックは全ての会員に大きな打撃を与えています。正直、これまで川上や川中の皆さんと意見交換し、コミュニケーションを図るということが不十分でした。この反省を活かして、しっかりとした信頼関係を築く努力を進めます。ウッドショックを乗り切るための明快な「解」はありませんが、今年が正念場だと思います。

―今後の住宅産業の展望は

建築費が値上がりし、性能向上を目指すリノベーションではなく、安価な住宅や化粧直し程度の手軽なリフォームにユーザーが流れる可能性があります。しかし、材料費や人件費を削っただけの安価な住宅や見栄えを良くした築年数の古いリフォーム住宅は、必ず不具合が出る確率が高いです。

こうした住宅が流通すると、工務店やハウスメーカーに対する不信感が広がり、分譲マンションを選択するユーザーも増えるでしょう。戸建て住宅の需要が減れば、経営が悪化して、倒産する工務店も出てきます。「安かろう悪かろう」の経営姿勢は、やがて建築業界全体に跳ね返ってきます。住宅の質を重視し、ユーザーに長く、安心して住んでもらえる住宅を提供するという、家づくりに携わる者としての大切な目標を忘れてはならないと思います。そして、住宅は地域に根差した会社が作るものという認識が、社会全体に広がってくれることを願っています。